

茅ヶ崎ボランティアだより

令和8年3月7日
第169号

編集・発行：茅ヶ崎ボランティア連絡会
茅ヶ崎市新栄町13-44 茅ヶ崎市社会福祉協議会内
TEL: 0467-85-9650 FAX: 0467-85-9651
URL: <https://cvla1980.net/>



With A Coordinator

こーでいねーたーのページ

こんにちは！市社協ボランティア担当の溝口です。これから春本番！『別れと出会い』、『終わりと始まり』の季節となりました。「何かを始めよう」と思いつつ、「何をしよう」と悩んでいる方もきっと多いのではないのでしょうか。

サッカーの指導者として社会人生活を始めた私は、2025年度春に息子が入団している地域のサッカーチームでコーチを始めました。少年団ですので、もちろんボランティア。今までは後援会としてあくまでサポートだけでしたが、「もつと関わりたい」という思いから、審判、コーチのライセンスを取得。正コーチのサポートをしつつ、時に熱く時に優しく子どもたちに接しています。子どもたちの頑張る様子、大会等で優勝し喜んでいる姿を見ると目頭が熱くなります。その姿や家族間の繋がりがやがていであり、財産です。

『新しい何か』を始めることには心理的なハードル（もちろん身体的にも）が伴いがちです。ただ、始めてみると、今まで見たことがない新しい景色や繋がりができ、人生が豊かになります。

終わりと始まりの季節。「興味本位で」「好きだから」「など、小さなきっかけから『新しい何か』に一步踏み出しははいかがでしょうか。その一つにぜひボランティアも！

ボラ連と各グループの活動状況

ボラ連 活動状況

- ★9月20日 茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員会へ『みんながつながる／ちがさきの地域福祉プラン3 素案』に対して意見提出
岡田書記
- ★10月23日 第2回茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員会
岡田書記
- ★11月4日 令和7年度第3回茅ヶ崎市社会福祉協議会理事会 廣田会長
- ★11月12日 茅ヶ崎市寒川町高齢者虐待防止ネットワーク連絡協議会 平岡副会長

各グループ

- ☆茅ヶ崎市点訳赤十字奉仕団
- 8月5日 松浪地区民生委員研修会（小和田公民館）23名 点字体験
- 8月8日 海岸地区子どもの居場所プロジェクト（うみかぜテラス）58名 点字体験
- 9月23日 茅ヶ崎地区コミュニティセンター「健康福祉フェスタ」約30名 点字体験
- 10月19日 鶴嶺西コミュニティセンター「福祉まつり」76名 点字体験（スタンプリ）
- 10月19日 松浪地区社協 福祉ふれあいまつり（松浪小学校）115名 点字体験（スタンプリ）
- 11月9日 海岸地区社協 ふれあいの集い（うみかぜテラス）50名 点字体験（スタンプリ）
- 11月12日 赤羽根中学校 1年生 133名 点字体験
- ☆介護ボランティア ポテトの会
- 9月2日 茅ヶ崎南地区民生委員児童委員協議会（高砂コミュニティセンター）16名 車いす体験講座 介助法説明と体験指導

2026年度 ボランティア大学 受講生募集!

ボランティアへ「はじめの一歩」

受講料・教材費 無料

ボランティア活動を始めたい方に最適な講座です。

基礎コース：5月7日～6月18日の毎週木曜日（全7回）9時15分～11時45分

会場：さがみ農協茅ヶ崎ビル（新栄町13-44）会議室

内容：ボランティア活動とは/当事者・活動者体験談/各種福祉体験など

申し込み：3月2日（月）8時30分から受付

問い合わせ・申し込み：茅ヶ崎市社会福祉協議会ボランティアセンター

TEL 0467-85-9650 FAX 0467-85-9651 メール vc@shakyo-chigasaki.or.jp

※基礎コース修了後、希望する方は各種スキルを身につける選択コースに進めます。



初日基調講演



車椅子体験



手話体験



点字体験

ボラ大とは？ ボラ連とは？

ボランティア大学(ボラ大)は茅ヶ崎市社会福祉協議会と茅ヶ崎ボランティア連絡会(ボラ連)との共催で毎年開催しています。ボラ連には12の福祉系グループが所属しており、ボラ大のプログラムには各種福祉体験講座も組まれています。

編集後記

昨秋日本で初めてデフリンピックが開催され、聴覚障がい者に対する認知度が上昇しました。手話スキルを活かした応援やボランティア活動への関心が高まり、大会を通じてコミュニケーションの壁を超える可能性が示され、多様性を認める共生社会への実現に向けた機運が高まっています。

障がい者は人口の1割弱ともいわれていますがその障がいについて理解や仕組みが充分とは言えない現状です。いきなり大きな変化は難しくても、障がい者の困りごとを知り解決策を共に探す努力が生きづらさの解消に繋がるものと感じています。

（茅ヶ崎ボランティア連絡会 会長 廣田みつ子）

- 10月7日 松林公民館 松林地区民生委員・児童委員 30名 車椅子の基本的な扱い方を体験
- ☆布えほんグループ コスモス
- 7月18日 浜須賀小学校 なかよし級 依頼作品の寄贈
- 8月27日 室田小学校 松の実教室 寄贈
- 10月8日 茅ヶ崎小学校 なかよし級 授業参観
- 10月20日 柳島小学校 なかよし級 新規寄贈
- ☆茅ヶ崎誘導グループ 草笛
- 10月19日 松浪地区社協 福祉ふれあいまつり（松浪小学校）146名 アイマスク・誘導体験
- 11月9日 海岸地区社協 ふれあいの集い（うみかぜテラス）57名 アイマスク・誘導体験
- 11月12日 赤羽根中学校 アイマスク・誘導体験
- ☆筆記通訳サークル「虹」
- 7月15日 茅ヶ崎市民生委員児童委員協議会（いこりあ）障がい部会代表者22名 勉強会「聴覚障がいとその支援」講義と体験

たんぽぽ ボラ連の仲間の活動状況です

手話サークル松の会は、昭和52年4月に創設された手話サークルです。毎週木曜日19時～20時30分、月4回活動しています。

主な活動内容としてまず、茅ヶ崎市聴覚障害者協会のご協力をいただきながら、手話の学習を行うろう協担当学習会があります。プリントやDVDを活用しながら、単なる手話技術に留まらず、ろう者を取り巻く生活環境や社会環境についてもお話をいただいています。

次にグループ担当回では、会員が4つのグループに分かれて、それぞれが企画を考え、運営を担当します。手話や指文字を使ったゲームやクイズ、勉強会など、さまざまな企画を実施しています。

昨年は東京2025デフリンピックが開催されましたが、それにちなんで元デフサッカー日本代表監督の植松隼人氏をお迎えして特別講演「デフリンピックを10倍楽しく見る方法」も開催しました。



その他、社会見学やろうあ運動にかかわるDVD鑑賞など、幅広い内容の活動を続けています。

松の会は来年、創設50周年を迎えます。

サークル活動を通じて手話の学習はもちろんのこと、さまざまな企画でろう者と聴者の交流と相互理解を深めるため、これからも一步一步活動を続けてまいります。

手話サークル松の会 会長 加藤 雄三



手話サークル松の会

今年のボラ連研修会を「改正障害者差別解消法と合理的配慮」をテーマに10月21日開催しました。2024年4月、行政機関及び事業者等に「合理的配慮」が義務化されたことをご存じですか？

ここに至るまでの歴史を遡ると、国連が2006年に「障害者権利条約」を採択し、日本政府が「障害者差別解消法」を施行したのが10年後の2016年、2021年その「障害者差別解消法」が改正され2024年4月施行という流れとなっています。

「合理的配慮」は障害者権利条約の第2条の中に以下のように定義されています。「障害者が他の者と平等にすべての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないものをいう。」

すなわち、障害者の社会参加を前提としない社会の在り方（社会的障壁）を変更することであり、日本語がもつ「不憫を憐れんで温情をかける」とは異なります。「配慮」は個人が行うこと、優しさなど個人

的な動機付けによって行う行動であるのに対し、「合理的配慮」は社会（自治体や企業等の団体）が行う設備やルールの変更です。

社会的障壁には「物理的」「制度」「慣行」「観念」の障壁があります。この社会的障壁の除去を実施するための具体例は「障害者差別解消法 内閣府」で検索すると見ることができます。

茅ヶ崎市でも「茅ヶ崎市障害者差別解消支援地域協議会」を設置しています。条例を作りたいという意見はあるようですが、今のところ条例作成までの動きはないようです。

合理的配慮を考える必要もないほどにみな相手を認め合いながら暮らしながら暮らしていける社会になるように余白を持つてほんの少しの優しさをお互いにさしあうのが当たり前の社会になりますように願ってやみません。



研修会に手話通訳と要約筆記(PCノートテイク)をとおしました

改正障害者差別解消法と合理的配慮

茅ヶ崎ボランティア連絡会 会計 石井 久美子

第45回ボランティアまつりが無事終わって

茅ヶ崎ボランティア連絡会 書記 岡田 善司

昨年11月22日（土）に茅ヶ崎市民文化会館で毎年恒例の「第45回ボランティアまつり」を開催、無事に終了することができました。昨年7月から始まった「ボランティアまつり実行委員会」に参加して準備を進めた茅ヶ崎ボランティア連絡会（ボラ連）のグループと茅ヶ崎市内福祉団体の皆さんに感謝します。皆さんとは12月の反省会で無事に終了した喜びを分かち合いました。反省会で話し合った反省点・改良点を次回に反映して来場者の皆さんが「来て良かった」、主催するボランティアの皆さんが「苦労したけどやって良かった」と思える「ボランティアまつり」にしたいと思います。

今回で「ボランティアまつり（ボラまつり）」の役員は4回目の経験になりました。役員としての立場で少し振り返ります。新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため令和2年・3年とボラまつりは2年連続で開催することができませんでした。

私は令和4年からボラ連役員に就任、予約している会場（市民文化会館）がコロナの関係から使用できない状況でした。11月末に実施するために逆算して9月に実施を決定、開催までの2ヶ月半の間に通年の開催準備のほかに市民文化会館の要求する感染防止対策とボラ連独自対策の実施項目と具体的な方法・手順を役員会でまとめました。少し窮屈な環境での開催になりましたが、来場者・主催者側ともに新型コロナウイルス感染者を出すことなく終了することができました。

令和5年はコロナの感染状況を監視しながら通常通りに準備を進めました。コロナが完全に終了とは言えない状況でしたのでボラまつりのスタッフはマスクを着用などの自主対策を行いました。コロナの影響はほとんど無くなりました。

令和6年はコロナを意識することなく準備を進めることが出来、少し余裕ができたのでいくつか新しいことを試みました。

- ① 体験（点字・手話・車椅子）ブースをバザー会場内に配置
- ② アンケート（何で知ったか？どこから来たか？）実施
- ③ アトラクション増、屋外立看板設置、終了時間変更など

反省会では、いずれも改善点は有るものの良かったとの感想でした。

令和7年もコロナを意識することなく今年の新しい試みをアップデートして実施、新たにボラ連のPR動画を放映とこの放映コーナーに新しく作成したボラ連PRリーフレットを置きましたが、新しいことをすれば反省することが必ずあります。来年に生かします。

令和8年のボラまつりがコロナに影響されることなく、自由な発想から新しい試みが浮かび実施、通常通りボラまつりが出来て平和を実感できれば良いと願っています。



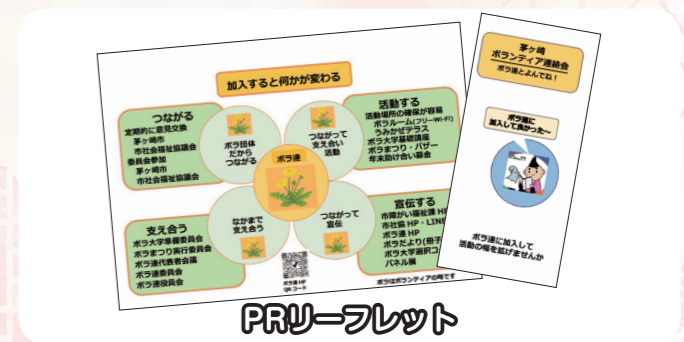
毎年大盛況のバザー会場



不思議なマジックにくぎ付け



PR動画コーナー



PRリーフレット